中央大学の最新情報を伝える父母連絡会機関誌
［草のみどり］2025年5月号（通巻第349号）
2025年5月1日 中央大学父母連絡会 発行
May 2025
Vol.349
5

草のみどり

Kusa no Midori

特　集

中央大学父母連絡会へようこそ

父母懇談会開催のお知らせ

2024年度卒業式／2025年度入学式

FRONT LINE｜経済学部

あらゆる業界に強い。経済学部生の就職実績

父母のための中大ナビ

2025 CAMPUS CALENDAR

中央大学父母連絡会

FACULTY OF GLOBAL MANAGEMENT

世界を動かす人になろう

Vol. 31

企業経営とグローバル経済の先端知識、優れたコミュニケーション能力を養うべく、国際経営学部生は前進を続けています。

中央大学公式Webサイト／学部情報／国際経営学部
chuo-u.ac.jp/academics/faculties/globalmanagement/

コンフォートゾーンを超えた挑戦がくれた新たな価値観

国際経営学部国際経営学科4年
神奈川県立厚木高等学校出身
青木（あおき） 日和（ひより）

ボランティアと短期留学の実行を決めた理由

私は以前から海外留学や英語を使ったコミュニケーションに憧れがあり、大半の授業が英語で開講される国際経営学部に入学しました。しかし、大学1年次に予定されていた首都ワシントンでの短期留学は、新型コロナウイルスの影響でオンラインに変更になってしまいました。せっかくの機会を逃したことに悔しさを感じると同時に、「今までとは異なる環境に飛び込んでみたい」という気持ちが芽生えました。国際経営学部では、授業を受けながら国内で英語を使える機会があるので、海外に挑戦するなら異なる生活様式の環境に身を置き、自分の殻を破りたいと思いました。そこで、国際経営学部独自の奨学金制度であるアクティブステューデント応援奨学金に応募し、約1カ月と1週間にわたるタイ北部でのボランティア活動とフィリピンでの語学研修に参加しました。

タイ北部でのボランティア活動 ～異文化との交流～

ボランティア活動を行ったのは、タイ北部のチェンライという山岳地帯で、さまざまな活動に取り組みました。現地には多くの山岳少数民族が暮らし、政治的な理由で国籍を持たない人々も多くいます。

ホームステイ先として訪れたアカ族のアパー村では、村の文化や習慣を肌で感じることができました。特に印象的だったのは、村の人々の助け合いの精神です。たとえば、近くの山で育てた作物は個人の所有物ではなく、村全体の共有財産として、それぞれが使う分を自由に取って食べることができます。また、誰かが病気になって困っていたらその子どもを預かるなど、皆で助け合うのが当たり前の文化に感銘を受けました。

また、ホームステイ先の家族と食事をしながら、お父さまからこの村で生活するまでの経緯についてお話を聞きました。彼はミャンマーでの戦争から逃れて19歳でこの村に移り、タイの国籍を取得するまでに長い年月を要したそうです。国籍がない人は、病院でも適切な治療を受けられず進学もできないなど、多くの自由と権利を制限されています。それによって差別を受けることもあると聞き、普段当たり前に享受している権利がどれほど恵まれているものかを改めて実感しました。

民族衣装を身にまとった村の人々

そして、翌日に子どもたちと一緒に道路のごみ拾いを行った際には、皆積極的に参加してくれて、大きなごみ袋が満杯になるまで村全体を回りました。活動の後、ボランティア団体に寄付されたおもちゃを子どもたちへプレゼントすると、満面の笑みで喜んでくれました。寄付やごみ拾いという小さな行動の一つ一つが、人とのつながりを生み、目に見えなくても誰かの笑顔につながっていることを実感した瞬間でした。

フィリピンでの語学研修 ～ローカル街と現地の人々～

ボランティア活動の後、フィリピンのセブに渡り、1カ月間の語学研修に臨みました。その際には、日々の生活でも積極的に英語を使うことを意識してさまざまな人とかかわりました。また、現地のローカル街を訪れる機会もあり、そこでは市場のような形で現地の人々が食べ物や物品を販売していました。常にごみや下水の匂いが漂っており、ストリートチルドレンが観光客にお金や物を乞う姿も見られ、都心部とはまったく異なる印象を受けました。

フィリピンの物価は日本と比較して安いですが、その分給与も少なく、語学学校の先生によるとフルタイム勤務での平均月収は日本円で3万円程度だそうです。多くの人が副業を持ち、家族全員で生計を支え合っていると聞きました。こうした現地の状況を知ることで、「英語を学ぶこと」は単なるスキル習得ではなく、「異なる背景や価値観を持つ人々と理解し合う手段を得ること」なのだと改めて気付かされました。

村の子供たちへごみ拾い後のおもちゃ配布

タイのホームステイ先での食事

ローカル街と現地の人々の様子

活動全体を通しての学び

この経験を通じて、私の価値観は大きく変わりました。タイでは、困難な状況の中でも助け合いを大切にする村の文化を学び、フィリピンでは、英語を通じて異文化の人々と深くかかわることの重要性を学びました。特に、タイの村でお聞きした「国籍がないことの不自由さ」の話は今後も忘れられません。私は今まで、日本で生まれ育ち、自由に教育を受け、安定した生活を送れる環境を当たり前のように享受してきました。しかし、それは決して当たり前ではないのです。

最後に

大学生活では、さまざまな挑戦を通じてどんな可能性も切り開ける一方で、自身の未来に漠然とした不安を感じることもあると思います。実際、私もこの活動をするまでは、やりたいことが見えず、不安でいっぱいでした。

国際経営学部には、さまざまな挑戦や成長をサポートしてくれる制度や環境が整っています。未知の環境に飛び込むことで大変なこともありますが、身をもって経験することで得られるものがあるはずです。

私の挑戦を支えてくださったすべての方々に心から感謝すると同時に、これからも当たり前を当たり前だと思わずに、コンフォートゾーンから出た未知への挑戦を大切にしていきます。

国際経営学部だより

ゼミと生成AI

中野 純司（なかの じゅんじ） 国際経営学部教授

現在の国際経営学部では、自国語以外で書かれた卒業論文を提出することが必須で、日本人学生は英語で書くことになる。私のゼミはデータサイエンスを学ぶことを目的としており、ビジネスに関連する（ビッグ）データを統計解析システムRで処理する経験を積んでもらっている。

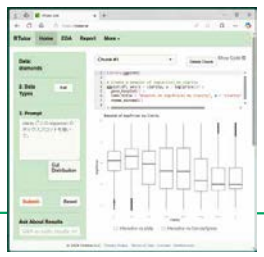
2022年11月に生成AIであるChatGPTが公開された。それ以来、その能力も飛躍的に高度になっている。日英翻訳はもちろん、うまく指示すれば優れたレポートだけでなく、Rのプログラムも書いてくれる。たとえばRTutor.aiというWebサイトでは、データを読み込ませ、行いたい解析を（英語でも日本語でも）指示すると、Rのプログラムを書いてその結果を提示してくれる。まさに、優れているがとても甘い家庭教師が常にそばにいるようなものである。

間違いを犯さない人はいないし、ましてや生成AIはまだかなりの間違いを犯す。発展した技術を使わないという選択肢はないので、いかにうまく生成AIを使いこなすかを教えることが必要である。

ゼミでは、「生成AIが書いたRのプログラムはその内容を完全に理解してから使うこと」「生成AIが書いた英語は自分の言いたいことと完全に一致している場合にのみ使うこと」と教えている。そして、それができているかどうかはゼミでの発表に対して教師や参加者が質問し、答えられるかどうかで確認している。

生成AIを利用するようになって、これまでより踏み込んだデータ解析ができるようになっているし、最終的な英文もかなり自然なものになっている。ただ、油断すると生成AIに頼りがちになってしまい、自分の実力が伸びないどころか、考える力が衰えてしまうことになる。そうならないようにしなければならない。

生成AIの発展速度はすさまじい。その有益さは認めるものの、今後を考えると一抹の不安を覚えざるを得ないのが本音である。



RTutor.aiの利用例